

# せんぼく探訪 VOL.3

## 【経塚】きょうづか

経文を経筒・経箱に入れて埋めた塚。後世まで教法を伝えようとし、また追善供養や現世利益(げんぜりやく)などを目的に平安中期から近世にかけて行われた。仏具などを添えることが多く、石経・瓦経なども埋めた。

[大辞泉より]

仙北市でも、2カ所の経塚が史跡として指定されています。いずれも小さな扁平の石に墨で経文を書く「一石経」であり、梅沢で発見されたものは一つの石に経文の一字を書いた「一字一石経」がほとんどであるのに対し、八津で発見されたものは南無阿弥陀仏と書いた上に梵字を冠した「多字一石経」がほとんどであったようです。

1. 指定名称 礫石経塚(れきせききょうづか)
2. 指定年月日 昭和37年5月30日指定
3. 所在 田沢湖梅沢字刺市

梅沢の大沼を堀としたと語られる「梅沢城」麓、手習石側の寺屋敷跡に経塚がある。所有者の家に伝わるには、こんもりと土が盛られ桜の大木が植わっていた処に、何時の代の城主かは不明であるが、城主が姫の死を悼み、



追善供養に石にお経を書き付け埋めた供養塚と伝えられ、所有者の家では毎年お盆に供え物などして吊っていたという。昭和24年9月1日のキティ台風でこの桜の大木が根こそぎ倒され根本からたくさんの一字一石経(写真2)が現れ、人々を驚かせたといわれています。

(写真2)



1. 指定名称 八津経塚(やつきょうづか)
2. 指定年月日 昭和63年3月31日指定
3. 所在 西木町小山田字八津

八津集落の西方「かたくり園」に隣接したところで、昔から八津観音の元宮と称されてきた所であったといえます。

昭和9年5月所有者が「ノリキ」(法力者)の「この地を粗末にはならぬ」というお告げにより、適当な場所に堂宇を建てようと整地を始めたところ、列石群が続々と現れ、本格調査を武藤鉄城氏により始められると石礫が充満した石槨の経塚を発見、採取した全石を洗浄して見ると墨書石はおおよそ100個、ほとんどに「南無阿弥陀仏」と書かれた、多字一石経石と称されるものでありました。

この経塚は当時の東京帝室博物館の経塚の権威、石田茂作氏(1957年に奈良国立博物館長に就任し、その館風を確立したといわれる。)により鎌倉時代の建設と鑑定されています。



列石群の中、平たい石が散らばっている

(仙北市教育委員会 文化財課)